

令和6年度地質調査総合センター研究奨励賞について 眞弓大介氏、坂田 将氏ほかによる 『地下微生物が天然ガスの起源を偽装！？』が受賞



地質調査総合センター(GSJ)では、研究者が推進する先端的研究成果の社会発信を加速するため、令和2年度に地質調査総合センター研究奨励賞(GSJ研究奨励賞)を設置し、プレスリリース等の成果発信を奨励している。第5回の実施となる令和6(2024)年度は、2024年1月～12月にGSJの研究者が発表した合計24件の“プレスリリース”を対象に、「社会課題解決や産業競争力強化への貢献、当該学術分野へ大きな影響を与えることが期待される研究」を選考した。選考にあたっては、地質調査総合センター研究企画室と連携推進室の9名のメンバーから構成される選考委員会を組織した。

選考の結果、令和6年度のGSJ研究奨励賞として、地圏資源環境研究部門の眞弓大介氏、坂田 将氏ほかによる『地下微生物が天然ガスの起源を偽装！？一起源の見直しを促す新発見が天然ガス鉱床探査の未来を変える』(令和6年12月20日プレスリリース：https://www.aist.go.jp/aist_j/press_release/pr2024/pr20241220/pr20241220.html 閲覧日：2025年4月25日)が決定された。受賞理由は「本研究は、地下の環境を模擬的に再現可能な高圧培養装置を開発し、地下で作られる生物起源メタンの指標を実験的に再現した。さらに、地下のメタン菌が熱分解起源の天然ガスの「指標」を生物起源のものに上書きするという現象を新たに発見したものである。これにより、これまでの天然ガスの起源や資源量に関する情報が大きく変わる可能性があり、新しい天然ガス鉱床の発見につながることを期待される。また、本研究成果は、Scienceというインパクトの大きな雑誌に掲載され、新聞やwebメディア等で報道されるなど、社会からの反響もあった。以上より、令和6年度地質調査総合センター研究奨励賞に選出した。」である。

その他のプレスリリースについても、学術的に重要な成果や、社会課題解決および地質情報に資する成果など幅広い成果が見られ、GSJの研究者が生み出す研究成果の質の高さや、社会のニーズに沿った研究を進めていることを実感した。今後もプレスリリース等による研究成果の発信が促進されるとともに、GSJや産総研全体でのインターナルコミュニケーションの向上につながることを期待する。

なお、本賞の授賞式は令和7(2025)年4月11日に執り行われ、中尾総合センター長から賞状とトロフィーが贈呈された。(地質調査総合センター研究企画室)



写真1 2025年4月11日に総合センター長室にて、中央が眞弓氏。